議会の評価

〔令和6年度決算審査
事業評価〕

多摩市議会

議会の評価について

多摩市議会では、従来から「決算と予算の連動」を図ってきました。多摩市議会基本条例を定めた平成22年以降は、同条例第9条第1項に基づき、市長等が執行した事業等の評価を決算審査の際に行っています。

令和6年度決算審査においては、市の取組の中で特に重要であると考えられる事業を選定し、決算審査の一環であることをより強く意識して、予算として認めた事業が当初の目的を達成しているかを決算事業報告書の項目に則して評価し、更にどのような点を工夫すべきかなどを指摘することで、より実効性のある事業としていくことを獲得目標に行いました。

評価にあたっては、4常任委員会を単位とした4つの分科会（総務・健康福祉・生活環境・子ども教育）で協議後、予算決算特別委員会全体会の場で評価を確定しました。

評価対象事業

1	ふるさとTAMA応援寄附金管理運営経費
2	一般介護予防事業（一般会計）
3	公園管理経費
4	多摩市立複合文化施設等管理運営事業

1 評価対象

① 評価対象事業	事業名	ふるさとTAMA応援寄附金管理運営経費			
	決算額	17,344 千円	予算額	当初 10,232 千円	最終 17,438 千円
② 選定理由	ふるさと納税制度のもと、全国的には、より多くの寄附金を集めるために返礼品競争が続く、農水産物など特産品を持たない多摩市など都市部の市町村では、結果的に大幅な税収減が続いている。特に地方交付税不交付団体の多摩市では、減収額に対する国からの補てんがない。 これらの現状をふまえ、現行制度のもとでの多摩市の税収増の取り組みについて、2023(令和5)年度に担当所管をそれまでの企画課から経済観光課に変え2年目に入った2024(令和6)年度の事業を中心に、その効果を調査・検証・分析する。 その上で、寄附制度本来の趣旨をふまえ、返礼品競争に陥らないかたちでの税収増にしていくための方向性を探る。また、現行のふるさと納税制度そのものについても課題意識をもちながら、調査を進めていく。				

2 事業の分析と個別事項評価

事業名	評価項目	評価	項目別改善ポイント
ふるさとTAMA 応援寄附金管理 運営経費	執行率	良好	執行率は当初予算比約170%で高い。2回の補正予算と2回の予算流用も、寄附金額増額に伴うポータルサイトの運営費・委託費不足の補てんであり、やむをえない。
	執行内容	良好	やむをえないことであるが、「寄附金額を増やそうとすれば、ポータルサイト利用の経費が増えるジレンマを抱える」ことになる。
	設定目標	要変更	決算カルテでは、「事業目的」とともに、令和6年度の目標として、「市外在住の個人からの寄附件数」増という目標と、「市の魅力発信、来街促進と産業振興」に寄与するという目標を明確に掲げるべきだ。
	成果指標	良好	目標の1つが、「魅力ある返礼品」の設定による「市外在住の個人からの寄附件数」の増ということだから、この成果指標でよい。
	目標達成	良好	ポータルサイトの活用・拡大、クラウドファンディング型寄附、「役務の提供」などにより、成果指標は大幅に達成しているが、「市の魅力発信、来街促進と産業振興」がどれだけ図られたのかは、このカルテでは不明。
	継続要否 (事業評価)	継続	今後とも魅力的な返礼品で「市外在住の個人からの寄附件数」を増やすべき。ただし、多摩市ならではの「役務の提供」に類する返礼品の検討、委託事業者の業務内容や費用対効果の精査をすべき。多摩市のファンになってもらうアプローチをより強化すべき。また「市の魅力発信、来街促進と産業振興」に寄与する面が明確になるような継続を求める。

3 来年度予算編成に向けての指摘・ポイント

ふるさとTAMA 応援寄附金管理 運営経費	(1)「市外在住の個人からの寄附件数」を増やすために、今後も、市民や市内事業者(京王、サンリオ、ベネッセ、日本アニメ、地元の老舗店、街づくりを共に行っている事業者など)と一緒に企画を考え、「魅力的な返礼品」メニューを増やすべき。 (2)上記の返礼品メニューのなかに、人気アニメを活用して、聖地巡礼、写真撮影会・お誕生日会など特別感を味わえる企画、体験型などを加えることの検討を。 (3)サイト上での返礼品のサムネイル(一覧表)の見せ方など、納税者の視点で分かりやすい工夫を。 (4)ポータルサイトの活用については、業務内容や費用対効果を常に意識しながら臨んでもらいたい。 (5)「ふるさと納税」制度の本来あるべき姿として、単なる返礼品競争に陥らないように、市外からの母校・図書館・自治会・市民団体等への寄附ができる道筋を検討すべき。また、寄附行為を通じて、多摩市のファンになってもらう仕組みづくりを。 (6)決算カルテの書き方として、「市の魅力発信、来街促進と産業振興」に寄与する事業であることがわかる具体的な目標と成果を記載すべき。

4 その他本評価に関連して配慮を求める事項等

	(1)返礼品競争の現状について市は、「受益と負担という地方税の原則を歪めるもの」、「寄附本来の趣旨を促す制度とは言えず、また所得に応じて控除額の上限も高くなるしくみは、高所得者ほど多額の返礼品を受け取れることになるため、公平性の観点からも問題がある」と指摘しているが、指摘のとおりと考える。「ふるさと納税」制度の廃止も含めた抜本的見直しを、強く国に求めるべき。 (2)当面、「ふるさと納税」制度が継続するもとの、多摩市の政策や環境のよさに共感するファンをひとりでも多くつくることを意識して取り組んでもらいたい。 (3)本事業は、所管の経済観光課にとどまらず、シティセールスや各地域の再整備・活性化計画とリンクさせるべき。

1 評価対象

① 評価対象事業	事業名	一般介護予防事業(一般会計)			
	決算額	9,966 千円	予算額	当初 10,879 千円 最終 10,377 千円	
② 選定理由	多摩市では平成28年度にそれまでの介護予防等事業が一般介護予防事業として再編され、令和6年度からは重層的支援体制整備事業の開始に伴い事業の一部が特別会計から一般会計へと移行された。 多摩市の一般介護予防事業について、その対象が第1号被保険者の全ての者及びその支援のための活動に関わる者となっているか、社会参加や地域づくりにどのように寄与しているか、重層的支援体制整備事業の現状と、地域住民や関係機関、他の事業との関連性はどのようになっているか、などについて調査し、これからの多摩市の高齢化への対応と介護予防について議論を深めていく。 なお、決算事業評価としては一般会計の一般介護予防事業を分科会評価対象事業として行うが、介護保険特別会計における一般介護予防事業についても一体的に行われているものとして決算事業評価の議論の対象の範囲とする。				

2 事業の分析と個別事項評価

事業名	評価項目	評価	項目別改善ポイント
一般介護 予防事業 (一般会計)	執行率	良好	3月補正で50万2千円の減額を行い予算額1037万7千円とした。執行金額は996万6千円、執行率は96%で適正なものであったといえる。
	執行内容	良好	地域介護予防教室、介護予防リーダー養成講座、うんどう教室、介護予防ボランティアポイント事業、近所de元気アップトレーニング等予定通り執行されている。
	設定目標	要変更	一般会計、特別会計の事業の目的が同一であり、重層的支援体制整備事業の開始によって一部を特別会計から移行したことの意義が明確になっていない。また、当該年度の目標を明確にすべきである。
	成果指標	要変更	活動指標は65歳以上人口で、成果指標は高齢者人口の1割というのは、特別会計の従来型予防事業と同じ「指標」である。65歳以下の人も参加する事業であるなら指標は変えるべきである。
	目標達成	良好	一般介護予防事業対象者令和6年度の65歳以上人数43,420人の10%の4,342人の目標に対して、5,394人で12.4%と目標を2.4%高く達成されている。
	継続要否 (事業評価)	改善継続	現在の各事業を継続しつつ、現在できていない地域に広めていくことと、男性の参加割合が低い課題について改善を求める。また、指導者の交通費や参加者の財政的な個人負担が軽減できる仕組みを求める。

3 来年度予算編成に向けての指摘・ポイント

一般介護
予防事業
(一般会計)

- (1)近所de元気アップトレーニング等の会場の確保の支援や、指導者の交通費など、金銭的な負担軽減を検討して頂きたい。
- (2) 高齢化が進み、65歳を過ぎても就労する方が増える中で、リーダー不足が考えられるので、健幸まちづくりや協創推進室とも連携して、大学生や現役世代等を講師に迎える取り組みを進めて頂きたい。例えば、介護予防リーダー養成講座や近所de元気アップトレーニングを平日だけでなく、土日の開催も検討して頂きたい。
- (3)参加者数の目標は達成されているが、更に広く参加者が増加するように、特に課題である男性の参加者率の低さを改善する取組を求める。
- (4)介護予防事業の成果を数値化して可視化する取り組みの検討を求める。

4 その他本評価に関連して配慮を求める事項等

- (1)重層的支援体制整備事業を本当に効果的なものとするためには、住民の自主性は尊重しつつも、国が責任を果たすことが必要である。

1 評価対象

① 評価対象事業	事業名	公園管理経費			
	決算額	806,431 千円	予算額	当初 804,345 千円	最終 839,632 千円
② 選定理由	ニュータウンができてから50年が過ぎ、それぞれの公園が更新時期を迎える中、安全確保を第一に、今後の公園の管理をどのように進めていくのかが課題と思っている。「愛でるみどりから関わるみどりへ」のコンセプトで様々な取組みを進める中で、令和6年度の取組みを調査し、今後の進め方について検討したい。				

2 事業の分析と個別事項評価

事業名	評価項目	評価	項目別改善ポイント
公園管理経費	執行率	良好	執行率96%と高く、予算は適正かつ良好に執行されていると評価できる。
	執行内容	良好	国庫支出金や都支出金を活用しながら、市民一人当たりの公園面積が都内1位とされる広大な公園整備、危険な樹木の伐採を行うなど高く評価できる。利用環境整備・公園管理業務委託を実施したことや市内7公園での駐車場有料化を開始したことなど適切に執行できた。
	設定目標	要変更	目標にどのような変化があったのかわからない。新たなモデル事業等、令和6年度に予め立てていた計画については年度目標に具体的に上げるべきではないか。また、公園緑地の安全・安心への具体的な記載も必要ではないか。
	成果指標	要変更	公園と緑地を安全・安心に維持管理するための具体的な指標を検討してはいかか。
	目標達成	良好	年度目標の明確化がされておらず評価しにくいですが、大きな社会実験や駐車場の有料化などを抱えた中では妥当だと思う。
	継続要否 (事業評価)	継続	公園の再編は引き続きスピード感をもって進めていただきたい。 技術者不足の時代でも事業者との連携を強化して質の高い公園運営をお願いしたい。また、パークマネジメント計画について市民に広く知っていただくような取組みもお願いしたい。

3 来年度予算編成に向けての指摘・ポイント

公園管理経費

- (1) ワークショップや社会実験の取組み成果として、公園機能の再編について効果があまり感じられない。費用対効果を考え、事業者との連携を密にし公園再編を推進してもらいたい。
- (2) 道路管理では、「マイシティレポート」というアプリを活用し、市民が道路の損傷や不具合をスマートフォンで即時に通報できるシステムがあるが、公園管理においても活用を検討してはどうか。
- (3) 落枝や倒木被害に対する事前対策について、令和6年度は積雪による倒木被害を受け補正予算を組んだが、事前に同レベルの点検ができるくらいの予算を確保するべきではないか。
- (4) 住民との意見交換を丁寧に行い、利便性等を十分に考慮した上で、必要性の高い場所には、安全・安心で清潔なトイレを整備してほしい。
- (5) 新たに導入された地理情報システム(GIS)を用いて樹木の状態や診断状況の見える化、公園の地図と連動した樹木診断マップの作成について検討してほしい。

4 その他本評価に関連して配慮を求める事項等

- (1) 公園使用申請がオンラインでもできるような手続きの簡素化を検討してもらいたい。
- (2) 適切に管理されていない緑も、緑被率やみどり率に含まれている。正確な実態把握の調査方法を考えてほしい。
- (3) ドローンやAIを用いた効率のいい樹木管理や点検手法を考えてほしい。
- (4) DXを活用した幅広い市民意見聴取方法や、データ解析のIT活用など研究してはどうか。

1 評価対象

① 評価対象事業	事業名	多摩市立複合文化施設等管理運営事業			
	決算額	406,659 千円	予算額	当初 401,835 千円 最終 407,701 千円	
② 選定理由	「多摩市みんなの文化芸術条例」において「地域の文化芸術活動の拠点施設」と位置付けられた多摩市立複合文化施設(パルテノン多摩)については、多摩市議会としても大規模改修にあたって特別委員会で議論を重ね、コスト面や多摩中央公園・中央図書館との連携など課題についても指摘してきた。リニューアル後3年が経過した新たな管理運営の中で、改修時の課題や目指していた新たな機能等の成果について調査・検証を行う。				

2 事業の分析と個別事項評価

事業名	評価項目	評価	項目別改善ポイント
多摩市立複合文化施設等管理運営事業	執行率	良好	補正予算は光熱水費の高騰に対応したもので適切である。予算の執行率は99.74%と良好である。
	執行内容	良好	周辺整備も一定完了し、回遊性を活かした取り組みや情報発信については今後改善の余地があるが、施設の稼働率・貸館収入・来館者数などは前年を上回りおおむね良好である。
	設定目標	良好	文化事業、利用者新規獲得、広報の充実についてはおおむね適切に目標が設定されている。今後、博物館機能についても、目標を設定することが必要と考える。
	成果指標	要変更	大・小ホールの利用者数だけでは全体像をつかむことができないので、成果指標の見直しが必要である。
	目標達成	要改善	中央図書館の開館、多摩中央公園の部分開園の効果により、回遊性は高まっているが、施設利用と年間利用者数は目標値に届いていない。また、極端に稼働率の低い貸室やオープンスペースの活用について、抜本的に見直すべき。
	継続要否(事業評価)	改善継続	文化芸術を通じた、活動の方向性は良い。基本方針に掲げる、子育て支援施設、周辺施設との連携などの具体化に力を入れてほしい。パルテノン多摩の役割は今後ますます重要になる。さらなる情報発信、利用促進、ひいては多摩市の魅力発信、にぎわい創出に向けた取り組みを求める。

3 来年度予算編成に向けての指摘・ポイント

多摩市立複合文化施設等管理運営事業

中央図書館、多摩中央公園といった周辺環境整備が完了した。多摩市みんなの文化芸術条例で規定された「地域の文化芸術活動の拠点としてみんなの広場になるとともに、文化芸術の振興ひいては地域経済の活性化に寄与する施設」の実現に向けて取り組みを進める必要がある。

【令和6年度の目標】については賛同するところ、以下具体的に指摘する。

(1)「音楽、演劇、古典芸能などバランスの取れた文化事業の実施」について

- ① 公演内容については、より市民に身近な演目も選定するとともに、実施主体の多様性を担保すべき。
- ② 未就学児や親子での公演鑑賞について検討すべき。
- ③ 現在、行われていない映画事業については市民文化団体との協力で実施に向けた検討をすべき。

(2)「施設利用者の新規獲得に向けた取り組み(一般開放、貸館営業、中央図書館との連携)の実施」について

- ① クラフトラボおよびキッチンラボの稼働率が著しく低い。抜本的な改善を求める。
- ② キャンセル料が発生するタイミングなど予約システムの見直しや公演・貸館の当日割引などの工夫を求める。
- ③ 多摩中央公園、中央図書館との連携と回遊性の充実を図り、オープンスペースの利用促進を求める。
- ④ 2階部分について、めざす社会包摂機能を有する施設としての姿が見えない。より具体的な取り組みを求める。
- ⑤ 文化施設としてトイレの充実が必要。温水洗浄便座の設置を求める。
- ⑥ 市民学芸員との共同で行っている回廊展示については高く評価できるものであり、しつらえの見直しや周知の充実でより活かすことを求める。

(3)「ホール施設における主催事業以外のイベントに関する広報の充実」について

- ① 「パルテノン多摩NEWS」の配布の工夫・拡充が始まっている。公演関係以外の情報についても周知すべき。
- ② SNSでの発信については、主催事業以外の情報も、より充実すべき。
- ③ 舞台芸術系アウトリーチ型事業の取り組みを強化すべき。
- ④ 多様な市民の活動と連携し、ワークショップやアウトリーチ事業を通じて、文化を創造し、文化芸術活動の場となる取り組みの推進を求める。

以下、博物館機能について指摘する。

博物館機能については、ひとつの柱となる事業にもかかわらず目標なども設定されていない。位置づけを明確にし、取り組みの推進を求める。

4 その他本評価に関連して配慮を求める事項等

- (1) 近隣公共ホールと連携強化を進めるべき。
- (2) トイレの案内表示等については、より見やすいものにしていく工夫が必要。
- (3) 事業カルテの内容は見やすく、記載もわかりやすい。今後は、記載の課題や方向性は重要である。積極的に取り組んでいただきたい。
- (4) ウェブページについては、より親しみやすいものに改良を求める。